

松崎馬場設計について

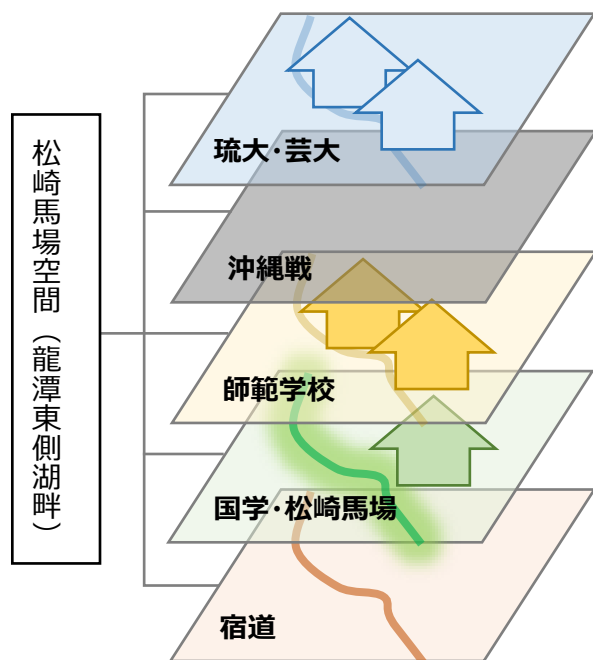
1. 松崎馬場の整備方針

- (1) 松崎馬場空間の理解と課題等 ……2
- (2) 松崎馬場園路の整備方針 ……3
- (3) 遺構の保全方針 ……4
- (4) 舗装計画 ……5
- (5) 園路の横断構成 ……6
- (6) 安全対策 ……7
- (7) 植栽計画 ……8

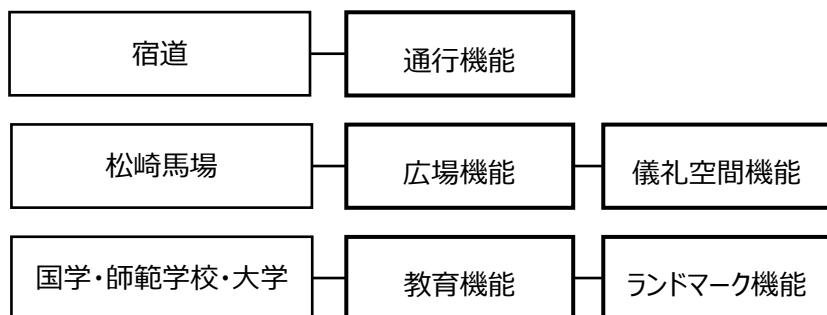
1. 松崎馬場の整備方針（案）

（1）松崎馬場空間の理解と課題等

【松崎馬場空間の変遷のイメージ】



【松崎馬場空間が持っていた主な機能】



松崎馬場整備にあたっての方針・課題

① 令和8年度までの整備方針：通行機能の確保

- 松崎馬場は、昭和63年3月の「首里城公園基本設計」において位置付けられているとおり、今後整備される中城御殿と首里城公園中心部を結ぶ、公園内の主要園路としての機能が期待されている。
- 中城御殿は、首里城正殿工事にあわせて令和8年度までに上之御殿エリア、御内原エリア・表御殿西側エリアの整備を進めるスケジュールとなっており、中城御殿と首里城公園中心部を結ぶ場となる松崎馬場も、同じく令和8年度までに、何らかの形で通行機能を確保する必要がある。

② 中長期的な課題

【遺構の活用方針の検討】

- 松崎馬場の空間には、宿道の遺構や、師範学校時代の遺構が残されており、今後、これらの遺構の保全・公開・活用等の方針について、検討を深める必要がある。
- 宿道の発掘調査では宿道の幅員など解明されていない事項があり、今後更なる調査が行われる可能性がある。

【龍淵橋側入り口の安全対策】

- 龍淵橋側入り口に所在する師範学校時代の石垣（以後、芸大石垣とする）は崩落の危険があるが、石垣は芸大の敷地内であるため、安全対策等は芸大が行う必要がある。
- 芸大石垣は、県指定史跡である国学・首里聖廟石垣の指定範囲に一部かかっており、撤去や解体修理には時間を要すると考えらえる。

1. 松崎馬場の整備方針（案）

（2）松崎馬場園路の整備方針

松崎馬場園路の整備方針

- 令和8年度までに松崎馬場の空間を整備する。
- 宿道上の遺構の活用方針は中長期的な視野で検討するため、遺構の真上を避けた位置に園路を整備する。

【園路整備の方針】

- ① 園路(宿道)は、令和8年度までの供用開始に向け暫定的なルートでの整備とする。
- ② 園路は、中城御殿と首里城公園中心部を結ぶ来園者や管理車両等の通行機能を有した園路として整備する。
- ③ 園路は、師範学校時代の石垣や芸大石積を迂回したルートとする。
- ④ 園路整備にあたっては、宿道(松崎馬場)の歴史的風致景観や世持橋からの景観に留意する。
- ⑤ 園路幅員は、試掘調査で検出された舗装幅員の4.0mとする。但し、龍淵橋側については芸大石積の崩落の危険性を回避するため幅員を4.0mから3.0mへ縮小とする。
- ⑥ 園路沿いで転落の恐れのある箇所については、安全対策を講ずるものとする。
- ⑦ 芸大駐車場沿いに築山・植栽帯を設け、芸大側には芸大駐車場からの雨水排水を受ける側溝を設ける。

【広場整備の方針】

- ① 広場は、国学・首里聖廟石垣前と松崎(龍潭突出箇所)付近、園路中間付近に配置する。
- ② 広場の整備にあたっては、周辺施設の景観や遺構に留意するとともに、広場の機能を考慮した整備を行う。

【安全対策】

- 安全対策として転落防止柵の設置等を行う場合は、往時からあったという誤解を招かないよう、現代的なものとする。

1. 松崎馬場の整備方針（案）

（3）遺構の保全方針

遺構の保全方針

- 整備にあたっては遺構の保全を基本とし、埋土または園路を迂回させることで、保全する。



遺構の例（師範学校時代の石積み（根石））



遺構の例（宿道の舗装）



遺構の例（師範学校時代の石垣）



遺構の例（宿道の舗装及び縁石）

1. 松崎馬場の整備方針（案）

(4) 舗装計画

⑤旧宿道上部の舗装は、宿道をイメージさせる土系舗装

③休憩広場の舗装は、来園者が快適に休憩できる脱色アスファルト舗装

④国学石垣前の広場舗装は、石垣と調和するサンゴ砂利舗装

②松崎広場の舗装は、イベント等の使用を考慮し、園路舗装と同様な石粉風の脱色アスファルト舗装

①管理車両の通行を考慮し、耐久性のある石粉風の脱色アスファルト舗装

国学前広場

休憩広場

松崎広場

▲脱色アスファルト舗装

▲サンゴ砂利舗装

▲土系舗装

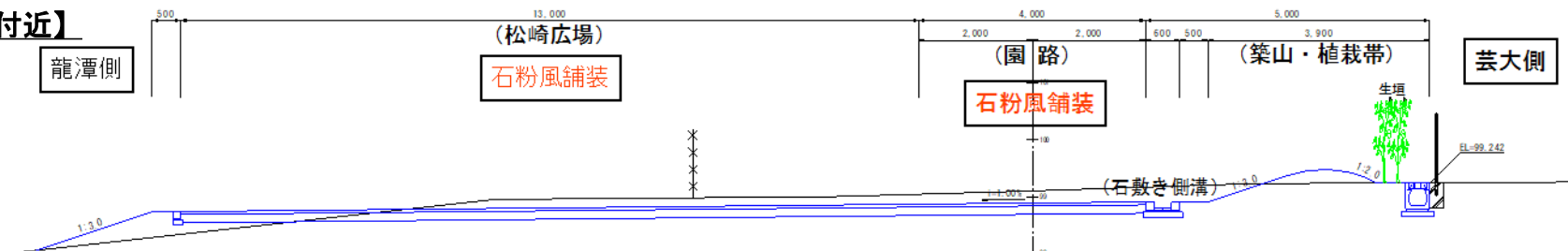
Detailed description: The image shows a site plan for the Matsuzaki Horse Field. The plan is color-coded to show different paving areas: yellow for management vehicle routes, light green for rest areas, and brown for the former inn road. Five callout boxes provide specific paving recommendations for different areas. Three photographs show examples of the paving materials: a light-colored asphalt, coral gravel, and a brown soil-based paving.

1. 松崎馬場の整備方針（案）

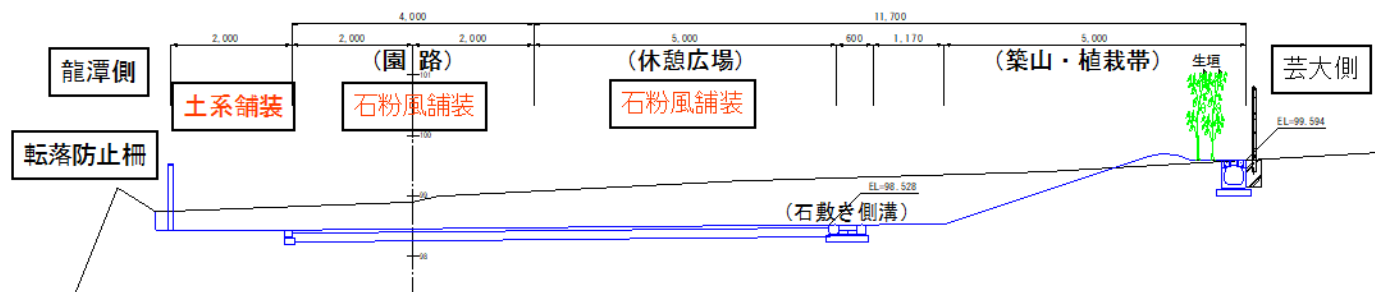
(5) 園路の横断構成

- 園路には試掘調査や古写真で確認できる石敷き側溝を設置する。但し、新規石積箇所や国学前広場、松崎広場、休憩広場、急傾斜の近接箇所、住宅沿いには側溝は設けない。
- 芸大駐車場側には築山・植栽帯を設ける。
- 芸大側側には駐車場側からの雨水排水を受ける側溝を設ける。

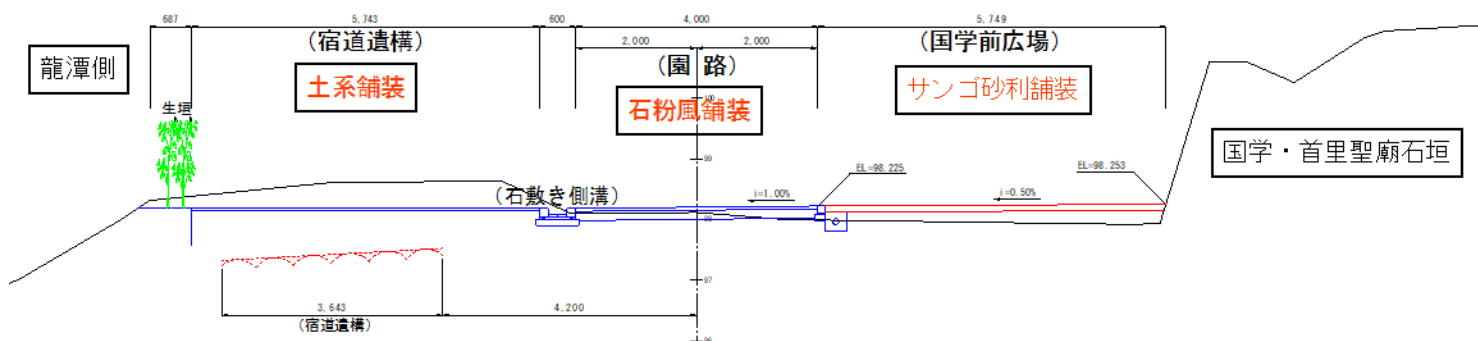
【松崎広場付近】



【休憩広場付近】



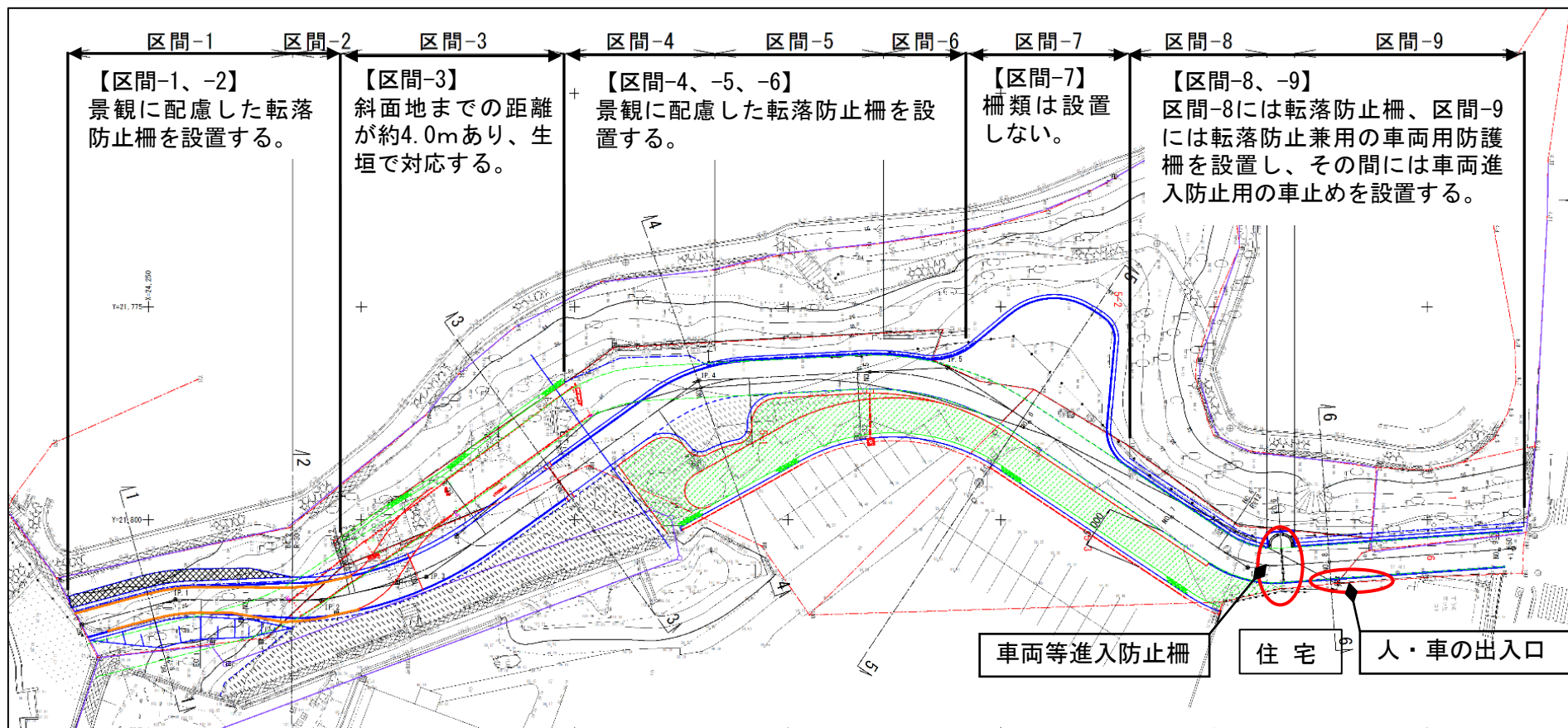
【国学前広場付近】



1. 松崎馬場の整備方針（案）

（6）安全対策

- 龍潭側には急傾斜地や既存石積があり、また龍淵橋側には新たに石積を設置することから来園者や管理車両等の安全を確保するため転落防止対策が必要となる。
- 来園者や管理車両の転落防止対策としては、転落防止柵や生垣等が考えられる。以下に各区間別の状況と安全対策を示す。
- 柵類を採用する場合は、景観に配慮したタイプを採用する。



1. 松崎馬場の整備方針（案）

（7）植栽計画

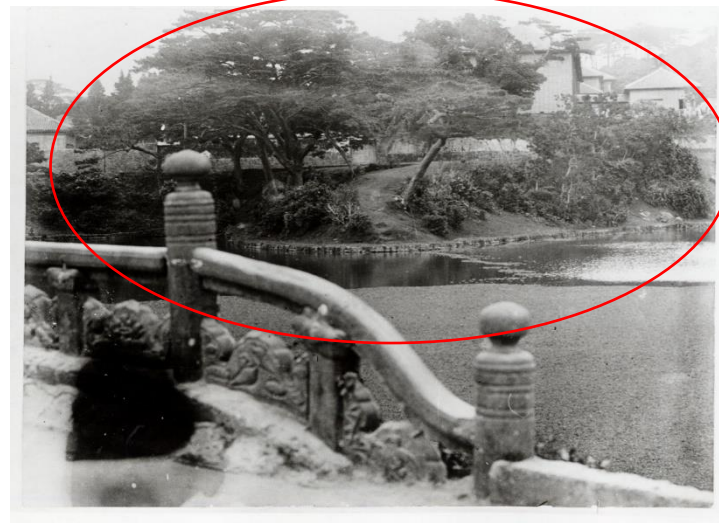
- 松崎馬場は、「冠船之時御座構之図」（重陽宴松崎之図）や、「奉使琉球図巻」（重陽競渡）では、「松崎」の名前のとおり、龍潭東側に松を主体とした樹木が並んでいる様子が描かれており、美観を意識した植栽がなされていた。
- 現況植生の調査や古写真等の分析を踏まえ、景観に配慮しながら、往時の植栽に近づける整備（松の植樹、往時にはない植物の撤去など）を行い、松並木景観の再現を目指す。



▲奉使琉球図巻（重陽競渡）（沖縄県立博物館・美術館所蔵）



▲戦前の首里/龍潭池の一带（日本名勝地誌（第11編 田山花袋編 明治34年12月9日発行）の裏書きあり）



▲龍潭池 世持橋（2枚とも那覇市歴史博物館所蔵）

1. 松崎馬場の整備方針（案）

方針など

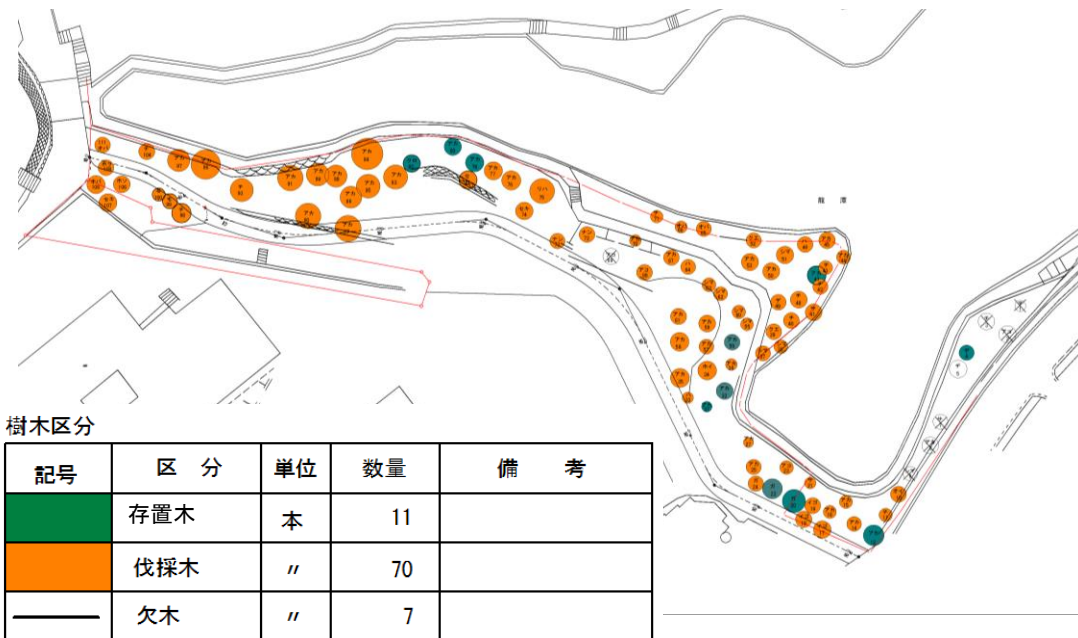
- 【撤去樹木】生育が安定し緑量感のある樹木を存置し、残る樹木は撤去することで、園路から龍潭の水面への眺望を確保する。尚、撤去については、段階的に撤去する。
- 【リュウキュウマツ植栽】リュウキュウマツは成木（幹周15cm、高さ2.5m～3.0m程度）を段階的に植栽する。また、要所に低木や草本を植栽し、園地景観の向上を図る。
- 【存置木の処分】リュウキュウマツは植栽後、樹姿の見栄えが良くなった段階で、存置木を伐採処分する。
- 【リュウキュウマツの追加植栽】段階的に撤去を行う際に、存置木の撤去後は緑の量感が減少することから、その都度、リュウキュウマツを補植する。

【存置木】

- ・県道(龍潭線)から龍淵橋付近を眺めた際に、園路構造物を遮蔽効果の高い樹木。
- ・景観面から龍潭と一体となって効果的な景観を保つ樹木。(枝が伸びて水面を飾っている樹木など)
- ・なお、枝ぶりが乱れたり、枝先が枯損したりしている場合は剪定を施し、良好な樹形を創る。

【伐採木】

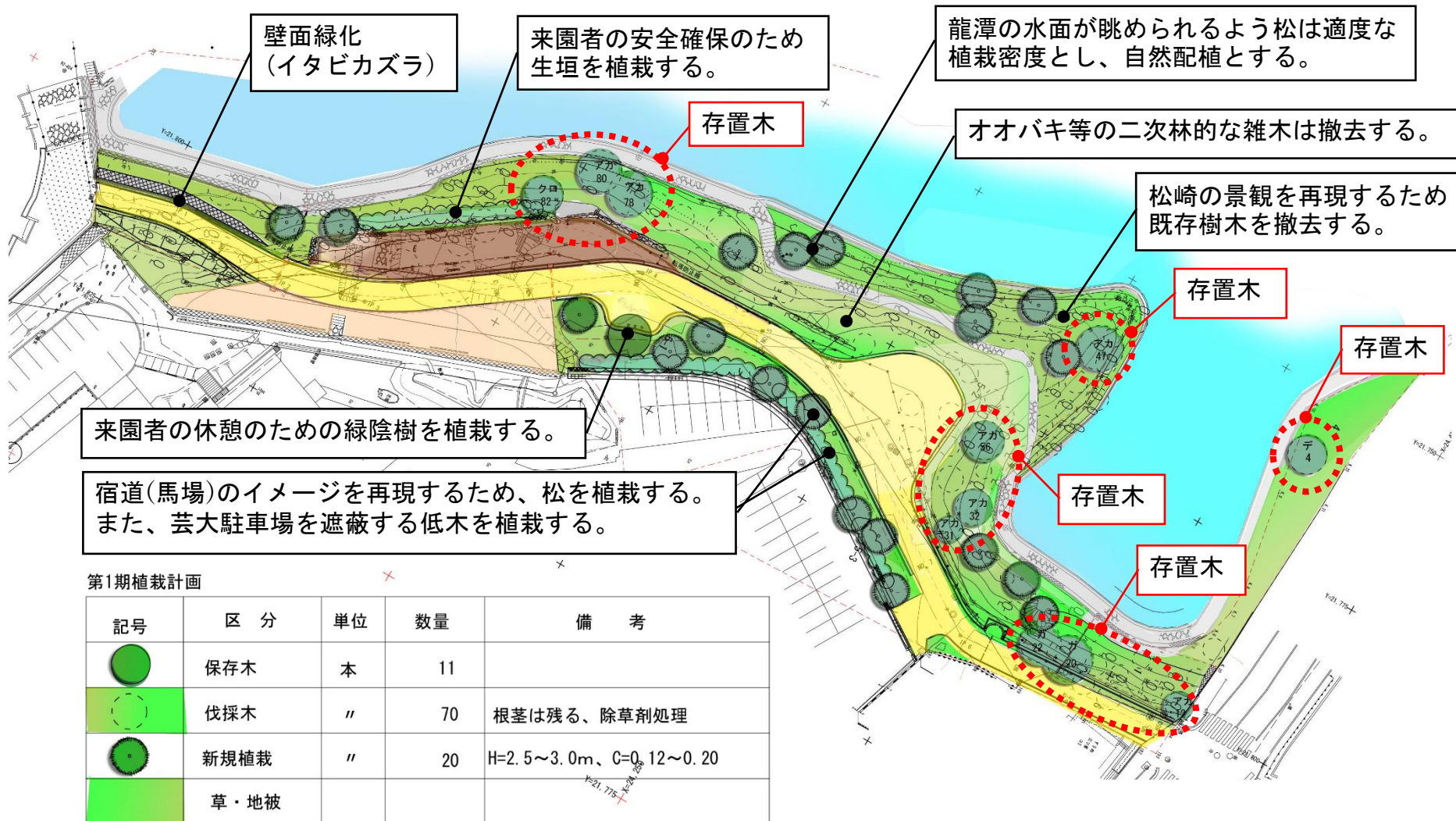
- ・龍潭の視界を遮っている樹木。
- ・景観面から見栄えのしない樹木や、オオバギなど二次植生を含む雑木。
- ・肥大した根が石積み等、既存施設を破壊している、あるいは将来的に破壊する恐れのある樹木。



※(一財)沖縄美ら島財団より提供の『首里城公園植栽管理図(H24年度～H26年度)』を元に整理。

1. 松崎馬場の整備方針（案）

■ 第1期 植栽計画図



1. 松崎馬場の整備方針（案）

■ 第2期 植栽計画図（第1期より10年後）

